

各流会派先生

第12回「若龍杯」オープン空手道選手権大会のご案内

拝啓

向暑の候、各先生方におかれましては、空手道の修業と発展にご尽力され、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜りまして誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、当館のビッグイベントであります**第12回「若龍杯」オープン空手道選手権大会**を今年も京都の地で開催する運びとなりました。

各流派・団体間の交流を図り、空手道の発展及び将来を担う青少年の育成を目的として、経験の浅い選手・初めて試合に出る選手でも出場可能な大会を目指したクラス分けと公平な判定の下、日頃の稽古の成果を存分に発揮できる場にしたいと考えております。

また、今回も九州地区から精鋭の参加が予定されています。

つきましては、趣旨にご賛同いただき、万障お繰り合わせの上、先生の道場からも多数の選手参加のご協力をお願いいたく、ここにご案内申し上げます。

押忍

日時 平成29年10月15日(日)
場所 京都市横大路体育館 メインコート
主催 国際武道空手道協会 全日本空手道 輪道会 昇気館
協力 全日本空手道 輪道会 本部
全日本空手道 輪道会 武神 佐藤道場
空手道 武伸 森道場 武神 真誠塾
国際武道空手道協会

平成29年 7月 吉日
JFKO全日本フルコンタ外空手道連盟
WKO世界組手連盟
IBKA国際武道空手道協会

全日本空手道 輪道会
昇気館 館長 中川譲二

第12回「若龍杯」オープン空手道選手権大会

- 開催日 平成 29年10月15日(日)
- 時間 午前9時 受付
午前10時 開始
- 開催場所 横大路体育館 〒612-8263京都市伏見区横大路下ノ坪1
Tel.075-611-9796
- 交通 車
- ・京阪電車「淀」駅から 市バス・京阪バス「南横大路」下車
 - ・京阪電車「中書島」駅から 市バス「南横大路」下車
 - ・名神高速「京都南インター」下車 国道1号線を大阪方面へ南下
大手筋交差点を南西に約5分(名神より15分程度)
- 主催 国際武道空手道協会 全日本空手道輪道会 昇気館
- 協力 全日本空手道 輪道会 総本部
武神 佐藤道場 ・ 武伸 森道場 ・ 武神 真誠塾
国際武道空手道協会 加盟道場
- 後援 日本出版株式会社、 ボディーメーカー
- 試合規定 一般的フルコンタクト空手ルールに準ずる
- 賞 各クラス 優勝、 準優勝、 三位、
※但し、参加数により変更あり
☆各クラス優勝者 副賞進呈
☆ベストファイト賞 ・ ベストJr賞
◎昇気館相談役より「哲心賞」
◎MVP賞として輪道会会長より特別賞を贈呈
- 特記事項 女子が男子のクラスへ、軽いクラスの者が重いクラスへの
エンシリーは可、その逆は不可
・ゼッケンは当日受付にて手交します
- 参加費 幼年・小学生・中学生・高校生 5,000円
一般女子・一般男子・マスターズ 6,000円
※お弁当はありません各自で準備願います。
- 申込締切り 9月10日(日)必着 用紙不足分はコピーして下さい
- 申込方法 申込用紙に記入捺印の上、参加費と共に現金書留で郵送して
下さい。
●申込用紙のみ、又は参加費のみは受けません
(※事務局に納入した参加費はいかなる理由があろうと返却しません)
- 送付先 〒616-8342 京都市右京区嵯峨苅分町21
第12回「若龍杯」空手道選手権大会事務局
昇気館 中川譲二 Tel.090-3267-7447

第12回「若龍杯」オープン空手道選手権大会申込書

大会主催者 殿

平成29年10月15日
於京都市橋大路体育館

私儀、下記の通り相違なく、また大会のルールを遵守し正々堂々と競技することをここに誓います。なお、万一試合中に発生した事故、ケガ等については、主催者側等に対して責任の所在を問うものでなく、自己責任において対処することを併せて誓います。

保護者氏名

印

※選手が未成年の場合

| | | | | |
|---|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------|
| ふりがな 氏名 | 男・女 印 | 生 年 月 日 | 昭和・平成 | 年 月 日 才 |
| 住 所 | 〒 | | TEL | |
| 所 属 流会派 | 極真会館 浜井派 愛知 石川道場 | | 級 段 | 修業 年数 年 ヶ月 |
| 身 長 | Cm | 体 重 | Kg | |
| 学年等 | 幼年・小学 <input type="text"/> | 年生・中学 <input type="text"/> | 年生・高校 <input type="text"/> | 年生・一般 |
| 出場クラスの番号を○で囲む | ☆幼年の部(男女混合) | 1. 初級クラス【9級まで】 | 2. 上級クラス【8級以上】 | |
| | ☆小学1年生の部(男女混合) | 3. 初級クラス【9級まで】 | 4. 上級クラス【8級以上】 | |
| | ☆小学2年生の部(男女混合) | 5. 初級クラス【9級まで】 | 6. 上級クラス【8級以上】 | |
| | ☆小学3年生男子の部 | 7. 初級クラス【7級まで】 | 8. 上級クラス【6級以上】 | |
| | ☆小学3年生女子の部 | 9. 初級クラス【7級まで】 | 10. 上級クラス【6級以上】 | |
| | ☆小学4年生男子の部 | 11. 初級クラス【5級まで】 | 12. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆小学4年生女子の部 | 13. 初級クラス【5級まで】 | 14. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆小学5年生男子の部 | 15. 初級クラス【5級まで】 | 16. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆小学5年生女子の部 | 17. 初級クラス【5級まで】 | 18. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆小学6年生男子の部 | 19. 初級クラス【5級まで】 | 20. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆小学6年生女子の部 | 21. 初級クラス【5級まで】 | 22. 上級クラス【4級以上】 | |
| | ☆中学生男子の部 | 23. 軽量級 (50kg未満) | 24. 中重量級 (50kg以上) | |
| | ☆中学生女子の部 | 25. 軽量級 (48kg未満) | 26. 中重量級 (48kg以上) | |
| | ☆高校生男子の部 | 27. 軽量級 (65kg未満) | 28. 中重量級 (65kg以上) | |
| | ☆女子の部 | 29. 高校生女子(人数により体重別) | 30. 一般女子(人数により年齢別) | |
| | ☆一般男子有級の部 | 31. 中軽量級 (75kg未満) | 32. 重量級 (75kg以上) | |
| ☆一般男子有段の部 | 33. 中軽量級 (75kg未満) | 34. 重量級 (75kg以上) | | |
| ☆マスターズの部 | 35. 40歳以上 | 36. 50歳以上 | | |
| 過去の大会入賞実績(全日本クラス入賞等) | | | | |
| ※身長・体重は正確に記入して下さい。著しく違う場合は失格となります。 ※クラス編成については参加人数により統廃合も有り得る。 | | | | |

〔試合時間〕

幼年・小学生・中学生・マスターズ

- 本戦(1分30秒) ⇒ 延長(1分のマストシステム)
 ※決勝戦のみ再延長1分のマストシステムを実施

高校生・一般 女子・有級・有段

- 本戦(2分) ⇒ 延長(1分30秒) ⇒ 再延長(1分のマストシステム)

〔審判員〕

主審を含めた5名または3名の審判員が競技の審判にあたるが、競技に関する最終決定は審判長の裁可による。

〔サポーターの着用〕

※ヘッドガードは主催者で用意いたします ○着用義務 △着用任意 ×無着用

| クラス | ヘッドガード | 拳サポータ | レッグサポータ | ファールカップ | 膝サポータ |
|-------------------------------|--------|-------|---------|------------|-------|
| 幼年・小中高生 一般女子・男子有級 マスターズ | ○ | ○ | ○ | ○ ※女子任意 | △ |
| 一般男子有段 | × | × | × | ○ | △ |

※拳サポータは指出しグローブ可、女子ボディープロテクター・心臓震とうプロテクター(インナーガードは不可)任意

〔一本勝ち〕

反則箇所を除く部位への突き、蹴りなどの攻撃によりダメージを与え相手を倒した場合は全て一本勝ちとします。 技有りを二本先取した場合(合わせ一本勝ち)。

ダメージ等により相手が戦意喪失した場合。

〔技有り〕

反則箇所を除く部位への突き、蹴りなどの攻撃によりダメージを与え、一時的に相手の動きが止まった場合。又、攻撃のダメージにより崩れて一時的に戦意を喪失した場合。

審判が攻撃力、ダメージにより技有りと判断した場合。

併せ技等により相手を転倒させ、瞬時に下段突き・残心を決めた場合。

〔判定〕

一本勝ち、技有り、減点、失格が無い場合には、主審1名、副審4名(2名)のうち3名(2名)以上の審判判断を有効とする。

1. 技有 ⇒ ダメージ ⇒ 有効打を含めた手数、足数 ⇒ 気迫

※「注意」「減点」がある場合は「審判判定基準規定」に基づく。

〔反則〕

掴み、掛け、掌低、正拳又は胸を合わせての押し、頭を付けての攻撃、

拳、手刀、肘による顔面への攻撃及び首への攻撃。頭突き、金的への攻撃。

倒れた相手及び背後からの攻撃。故意に場外へ出る。掛け逃げ。抱え込み。

捌いてからの攻撃は有効。

※幼年・小学生低学年クラス(3年生まで)の上段への膝蹴り攻撃は禁止とします。

以上の反則に対して注意が与えられ、

注意2回で減点1(減点1は相手に技有り相当)となり、減点2(注意4回)で失格となる。

注意1回は本戦では判定の基準にはならないが、減点1は判定ポイントとなる。